

時代性と儒教にみる日韓の違い

～以下、書評「心で知る、韓国（小倉紀蔵 著）」＜森谷正規評＞（毎日新聞 05.12.4）より～

（・・・・・・は省略部分）

韓国には、日本にはない男がいる。それが、日本の中年女性の間には韓流ブームが生じた理由のようだ。その男とは何か。

韓国の男は、愛が広い。韓国で愛は「サラン」だが、これは恋人ばかりではなく、家族や国家にも向けられる。日本で恋人だけ使われる「恋」に相当する言葉は韓国にはない。そこで、韓国のテレビドラマや映画の中では「サラン」が、恋人に加えて家族へさらに国家への愛として発せられる。この「私」と「公」の連結が、いまの日本に物足りない女性にはとても魅力的にみえたのだろう・・・・・・。

また、ドラマや映画に見る韓国の若い男は背が高く体格がガッシリしていて、じつに男らしい。というのも韓国人は自他の身体に強烈な関心を持っていて、鍛え抜かれた若者が大いに持てるのだ。女性は容貌であり、ひたすら美を求める。ドラマの主役になるのは典型的な美女ばかりである。日本のように個性的な女が持てるのではない。

韓国のドラマや映画がまさしくドラマティックで面白いのにも理由がある。それは韓国人特有の「恨」によるもので、日本語の恨みとは違って、望ましい状態からほど遠い自分の無念や悲しみから生じるものだ。その「恨」を視聴者に共有させようと、主人公の出生の秘密、病気、事故、陰謀、死に別れ、生き別れなどをてんこ盛りにする。非常に複雑な人間関係をこれでもかこれでもかと描くので、ストーリーがじつに面白くなるのだ。

・・・・・・よくよく見ると日本とは違う面が多い韓国人を心を通して明らかにする・・・・・・視点は二つある。一つは時代的なもので、韓国ではプレモダン、モダン、ポストモダンが社会の中でビビンバ、つまりまぜ御飯になっている・・・・・・。男はプレモダンの儒教道徳に従って家族への愛を語り、モダンへの指向があつて国家への強い意識を持ち、したがって堂々としている。とっくにポストモダンに突入した日本では若者は、私的な世界に入りこんで、堂々としたところなどはないのだ。

もう一つは伝統的なもので、儒教である。日本にも韓国にも言動に二重性があり、日本は「建前」と「本音」だ。韓国人はそうした日本人に不信感を持つ。一方韓国では、昼間は口角泡を飛ばして議論をし、相手の間違いを仇敵のように面罵するが、夜の飲み食いでは打って変わって親密な友のように陽気に振舞う。これは儒教における「理」と「気」であり、その両方を持つのが当然なのだ。その他にも多くの面で儒教が韓国人の心を定めている。

ともかく、日本と韓国は違う面が多い。・・・・・・日常生活にも相違がしばしば現れる。聞いた話だが韓国人は友達になると、訪れた家で、冷蔵庫を勝手に開けて、ジュースなどを飲んだりするようだ。これには日本人はビックリしてむっとして、友情を損なうことになりかねない。それは・・・・・・「情」で説明される。「自分と相手との水平的な関係において生じる人間的なやさしさの感情」である。韓国ではたちまち親友になって相手に入りこむほど深い「情」を交わすのだが、それは韓国が厳しい差別と序列と競争の社会であるからで、互いに慰め合うやさしさ、情が不可欠なのだ。

庶民の間で韓国は急に近くなったが、心や生活での相違は大きく、感情の齟齬が生まれかねない。日本人は相手を思いやる心を持っているので、韓国人の心を深く知って、思いやりを持って接すれば、より良い友人関係を築くことができるだろう。